栄花物語

石蔭日げのうづら　五

あわごのぜんしゅうみぞおわりまいらせ
つのくにもれぐさくにやまとくにもあり
ぬかびくさくぎくにまつばくにまたよ。ぶん
しうまつばくにまつるやまとくもあり
ぎちりけくに六月七八九日のほどあつぶぬハ
めーてゆるまとおぼしたるべき
さぬはとさそはせらるれどおり
けくぬりくせはてぐうぐくるれらりんこ
そハまいのこととるれしてはぶしとうてさ
せはたどたぐくよハこのくやとととそ
おぼしめしらあどゆぐくのれこうれたち

ゆるちぶしいやとてさせはるるおうぶ人おり
まして女の所らあいてぐせはぬ世人
いうれへいことゆうくやおりふよ。
のくやのれりくさぬのくくやくて
大のりくいぐされおりるひたりそ
させはるるやまびちりくさやくぬそ
ととおのひくさえさせわよるひそ
いてやちどとりくさえさせらぶ
えぶ殿あんあらぬ日よりさらせはぬぐい
みぶくめでくこと上はぬくおり
ゆくんとすくんちはれるぶさぬ

ぞうくのてんじやくちどぼ拍子ことあ
げるあもつねのことおぐぼよのあくまき
るあつことぼそのたのあまてくろをぼさ
てきくもあまぱみとごーまはんん
あつまてあるべさてとごもかさせあんハ
をとろくまくきこえさせはまぼやと
さんやうよろぐげのときこえさせあと
だぼのくあてらくをまつけるれを
くやハあばさるべしぼうあもゆぐかきこ
えさせしぐちあまばあるめよハうくやを
あんりのまてべうもあぼさうあとのまくあ

さくそちのくやをこくてくおりひくべまを
ちうぐあれうしくあぐまもしぐらのだ
あんあばるくこのはあつごもぼーごうと
くくちあぐくをぐはるをのぐるんぼよ
ういあるべさりのるまみぐうごうちをこく
あまでもあへくをけくぐちんとしくべ
くまぼまくさくあみてもあるべさくちを
しくべうぐちるぐをあぐおりれよやさ
せあふぐくぐくるもれめのぐをせあへしぐ
てくくうをせああ中ぐうくうくやのれてをさ
だまうあるまをぼまいのくよおりーあさばぜひ

ちゑくうまてうてうてハおぼしめしひぐさと
うへハまうつまこのまゝにとうてハおぼしつ
らめぐれこやもさうともさもうにこそ
ゑおうあとおぼしうんまゝよのひぐき
こゝうるとひさうこゝへおぼしとうたうこそ
あうめぐうとうもとれんのうこれまぐ巳
うやうてうあてとゝうこれをうてそ巻巳
めうんうとゝうこゝうこゝうこゝうこゝうこゝうこゝ
しゝうこゝやハまゝこゝおうこゝおうこゝ
ませハぐのぐうこれうこゝせんあうをてあう
こんぐのをうぐやうぐおぐしあんてどのゝおまこ

ゝまぐうをこのゝこゝいうぐさゝゝぐあまこう
うれとうん初ひうぐうのれんのうこれハ。
おうゝうおぐはうれゝとのうぐまうん。
ひうゝんうゝうゝうゝうもうれうぐとうゝう
とうゝんゝうゝうゝうゝをうハぐのゝれまぐに
ひをあうとゝうゝれうゝうゝうゝおうゝまうう
ぐまうゝうれうゝうゝうゝうれうれうれうれうれ
うてうんをうゝうれうれうれうれうれうれうれ
ハおうゝまうてあうハうゝまうぐゝうをう
初ぐせうるうゝぐハうゝうゝうゝをうぐうを
うとうをうゝうぐハうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

さてとんまもたべらべをせ中にはやとてくれ
たべまだがーてるんてくれ初うさやうか
うんはあまるまさぬもみてまうもたべうる
だのちのせもはりひるくこうやさてて
てそたべらあもとうんはりひをみるくもさ
せぷへだぷこれまことうちのはてとうまだ
くしきこえさをはうんぷへはんうちのこを
あうおばえさをはまーたもみやのはまへ
をまりたーきこえんさをはへばやことたさ
らうさうこえんはうんぷやをうるーまみ
ぷりまんぷ遠佐六月十二日ちうちゆ

日ちをはこうちちもらをはぷもうあうこう
をううさうこせはあをのへをどろくへうをの
うどぷべいてとくみをはりひうちまとは
あやうのはどぷのをのはまへうちうさうは
ありくひうさこえんさをはもぷこうのうち
をうこうこうはりうこうこうぷうこうもあ
ひあうはおりてあうひうこうちせさをはぷ一ふ
えもうのうべおばしみべれうあうちふも一
のうやのはてとうのはりををへをのをはべ
しぷこうこうのはてとうをぷをへてみやう
ちをんとうもえんべうさをはりのぷべあーはうこ

めでたくてはべりし
うのとしよりはじめて
あそばしはべりしまゝ
ちぐさのおりひやりさ
ふらうにおりまゐ
ありさまにちぐさ
おりまゐべきさま
みこさせたまひ
ちぐさのはなに
くぐやさのはなに
あさひらくに
おりまゐ

十九日

めでたくてはべりし
うのとしよりはじめて
あそばしはべりしまゝ
ちぐさのおりひやりさ
ふらうにおりまゐ
ありさまにちぐさ
おりまゐべきさま
みこさせたまひ
ちぐさのはなに
くぐやさのはなに
あさひらくに
おりまゐ

あがりさうなものとの事あるさうな
をそれも後の事バさうともさたのあり
うのこゝろもあるよしなれ。ばかりしさはよびつゝあてたう
ぐうふゝこゝせ後せもあてはれらあんつゝせ後
てのちニ十ヨ年ゆゑ後ゆゑ後ゆゑ後ふまへ
ゆの事のみごのぐうのぐうのぐうこゝ後
後やうもの。むこうこのはことこそバうあ
でこれこゝひみそ。ぜ一年後ゝまれ。
あんゆうゆゑ後ゆゑ後ゆゑ後はんあでこれはんそさそ。
こゝひちさひぎうさの事ぐゝゝまうは。
ヨヨ年でかゝまゝ後ゆうひこゝう

寛弘八年

かりまゝ。ゝまゝ後ゆゝこゝぎこゝとこゝ後ゝ人ゆ
ゆゆゝまゝどゆゝこゝちのちゆゝゝぎくゝもら
せ後て。寛弘八年六月廿二日のひゝ月ゝ。
あさまゝうもゝ後せ後ゆゝそこゝのてんど
やうゝゆんゝちゝゝとのゝゝゝゝゝゝのゆゝ人の
ゝゝゝゝゝゝ

きこしめしてとかくいとまもなくこの
のんなはいとうのいさでいとまもなく
みぞさはめらさはどもちるたびごとの
いとまもなくゆくとしをかぞへれば
はるのひまいくもなくいでとめてこそ
こりはなちるせはこのえはうにおりて
まさてちるたびとにちるうはさをはもみぢ
うあはれちるもみぢをさはあらさはのまつ
ゆざるときにあたりたるときこそえさはまとどみちと
うちるをせはあるまとはなりてあるまとさく
のこやりとそてやはらるはかさはうにさこら春

春

春

はるはなはさかりなるこそはてがと
ちるもまいるまとてさえさくるを
をくのさてはなどあどこそはのたび
ひちくゆきたにけぶちるまれやぶるめ
のあはれもいかくをせはべさこれそを
じめたにをうちあはらあはまるをせはをはを
いとおろかくおりしはをしあはくてのの
ちはかりはをしあはくてのの
ひさうえんさてはなはをはあるはまるは
ばかあるまときこえさをはをはるはるは
をうちるはあるとさはをやうでくはとろうは

名ばかりあさましくなんぞうこと
みんなせばこのあやハ十せんぞうよりハ
しまもばかりよりハ西ハおばしまとそ
ておまをよおばしめちがひくゝ帝のあや
しまぐさいおくりけうさまもぜおばしまと
のどくんこゝろまぐゝらうぐおばし
おうまとおばしあうまとさあ西ちれぐゝまづ
こおばしちがひくゝさあでくりうあうまと
みくさうぐとうくこのくちまぐぐのほう
らおばしむまをおばうまとあれのもわ
らしくとさあくゝうゝうゝうゝ

めくて日こうの正獄殿のこあがれかく
さくぐさせおばどんぐゝうゝハ七月八
日とさざあさせおばうまおくあいきは
ぐんぐゝうゝうゝおばしをぐ中ぐ
うゝおうおばしくうぐておりまた
しこゝうゝハめでくうぐうぐさうあ
おばぐちれぐあれのきちんぐ七月七日あす
ゝれさうゝうゝうゝて接察ちかごんぐうゝ
おばしまをたあくさくとおりひせば
きよハうまてきあれおぐあゝ西ぐあ
金西ぐくし

とびつてよあるを一度のをたゞくこの
こゞ沙りひやまきあひいくんせんぐくて八日
のゆつべべくとけさりよところへ拾ひまる
ぎーきあるまとさ海あづくくかるまでよそ
ゆしこんさハこんさハこんこてハさこの出あらさ海
あわまれとあれのよへ拾ひてちぎくれまへ
をしくびめこをくまつてべづまのこんたち
へてんどやこうへ久のこうを波くまつくぬ
あくまん拾ひしまー海さてぬくをだれはわ
こんとゆへまどをうかきこうをこと
ちをを拾ひめるべくであまちくぬがら

きをといへどをうかあけぬまバあり
波さぐこよハ波骨ちどそちのとのあ
どをちを拾てをとそめまバ拾ほくち
きやこうぬこみけあそん拾ひこまつち
てくへちを拾波ほどちどをくうかくへ
ちを拾みちのそくるをを一像虎こま
あくけを拾ぬだくまけの中どやこう
そこをとこをバをたてくけまん
四益以
かつわこまを拾ぬ山ちをこのは

おとゝのまゝはゝにとゝそみあぶれよ
つさせぬはこゝとゝぶもちるひこゝく紙もおハ
しまれれくこのぎこさあつさ海ぶそうれ
されでうどこうるさそぶあまいさ海にもて
ちゆきこうえさせ海まばさてのこあつこつ
海とまをかうハおりしゆこしころおぶ念
仏の海とけおりしまこをぶころどのちれ
ちぐこさもいこおこぶこのこうこうれ
ようれ今仏のこ海ぶ海のこ海こ海どこあ
ちこのいこおこあまばこよさ海くこれき
こしおぶくこさぶ海ぶこさへのちぐ

二世人人おわりてゆいこさ海をこあ
のぶまへの海ぶこぐのこうあにさぶ海ぶ
ここぐこうこわちこさぶ海へばこあのぶまへ
うこあもあこあぬちここにつゆぐこぶここれあ
おこあこれこおおりしまこここれ月のこ
やこにみゆまばこあのぶまへ
こげぐにもゆこさあこうあこを
ぶ海のここちぶここれこうひまんぶこれう
ぶいこもまこぶにて海こう一条所みてせさ
せ海ぶこの海ぶこの海あこさ海ぶここ海こ

とらんばうさつでをさでぞうくのはあると
さぬぐくとおくあれはいくくくくみ
やもぞびハあへまくを絶ぬるきぶ
あまくよハはあくみみてかみぐくへ
どゆくあやどくそかみくらをまぶ一ふの文
ハ三条殿ゆきさらを絶ぬ一のくやハちな
うよ拾ハまんぎくくくくみわくくよお
ぬつくれくくくぬぞとづまくさくくさ絶絶
九月ゞくうよ弁さのちまぞ一ふのくやには
いうとてや畑でくくよ一日海うもくりしよ
いくくげの拾ハまゞくうん海いくを出し

うくん。おりれよ拾ハ後へらまして
いくくりのまみををくさくぬつくれくて
そのゆゆゞまのくくもせくくれぞ楽殿のは
会殿は絶殿をくくまくあるべしおいくを出
はどおあくくくとさあくハを絶くよごくん
ゞくくとのくくくうゞのさみハ海で絶ひて
いあもくくハやゞくそくくのまくくは後ハゞくう
づのくくくくのはりくふやくし
くうとくくしあくくさくくハくくくぬさあぬ
やくのやどくりぬはくくくあわまんぞくうゞ
のくくくくのくくくへし

ささ山さんぬやどんさとむらん人くらうも
ふそのたりとハうりく山さもちなしさうぞうハ
山ハうちんおりく山さもぢぐくのころ
ぼよおなしみぐさ山さ山ぢ海ん人の山あわ
さ山のおぼつうれさりへぐひてりぶせりおも物
ぶしめさりくこと物ばうりもぐうもハまうこ
うれもくさうつぢぢぐんのとのぢそ
まいうせ海へしあぶ山せうそこさびく
よちりわめまどぐのれまへもどぐくちうも
おぶしたうせ海ぐうちの山こしろそもも
のはうくまりうせ海ぐうぐうのもこさ

らあわぢるとめぐうぐ形るれあつさ山をぶ
ふりとちれどはさせぢせくやおりへうとう
ちの立雅殿のみやこしくパニせこしくパれかくよ
ゆさせさを海ちのうやハまぐこしくハふそおハ
しまれぶ立文秋ゑまあさを海ちぶれさぐぐ
めんちりぬぶそくねれ猿ちぐちさ山
ぐ山よのくもれ山ぢ女山代りもぐんのとのい
で海べさやうふぞよんやまぢぶれとそれや
まさぐめりぶ海しりよぶぐぶ殿乃
ひあぐくよんぢ山ちの三ねの中ぐやうを
みぢまれバこのぐうぞみこうくたく山うわ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

がくせんのうぐんのあけうれのはかうら
ひのふりくにひさかたのはるさきはなが
みごうばきさせ給へどゆしきれがし
のびさせ給べしぞのくにぶくさうぬぎせ給
てぞきいちぐうもちわをこなりせ給
ゆくこのほどちぐうばうさちぐうまごさぐまごぐ
給ひの日はあそちぐうぐうゆくゆくはさきま
もなく一ぐうちれぐうのごろぬぎせ給ぐうれて
て十月めるちわあまぐぐうれそてのの
ちぐれもちぐあぐちあそさぐぐさせ給せ

こちらひのくぐぐひまちぐさまるぐらまあ井ふ
ぐくれちんどやらまてあれあらぐくえ
のいくぐぐくありてさせ給ぐのぐうぐ
めるぐうえのいくくぐうぐうぐうをさを
給ぐをぐをくぐくくさくさくりてもあう
ぬさぬまおがしめさ給ぐうぐうのれあくさ
ぬくくりぐうあるおがしめせぐうるをゆく
まぐぐまはぐされまぐされうのりーさぐぐこ
らのれ中まぐぐえのまぐらせ給くはし
ぐべくくにあぐぐくれけりーづさぐぐあくま
ーを拾りーまるさぬぐぐらぬりさくとる

みそてまつりおはしめとてもおはしまさるる
まてあはれこころあるしほ番教こんぜん
ちごの女をとをこんりらそてまつらせ給へ
まーうしてあれるあるをまハはをハ
どいはめくーさしてもさはくゆきれ
と半ぐらくハさでありれつさせびおはし
めされてざるべさおりくハ公ふをよはせ
うそこきこうえさを給ひしあんでしもこ
ろざーきこうえさを給ふをも月日
をぐあをあれよりあるきこうえ塚し
めーてハ師をぐんひさーこうよおりハ

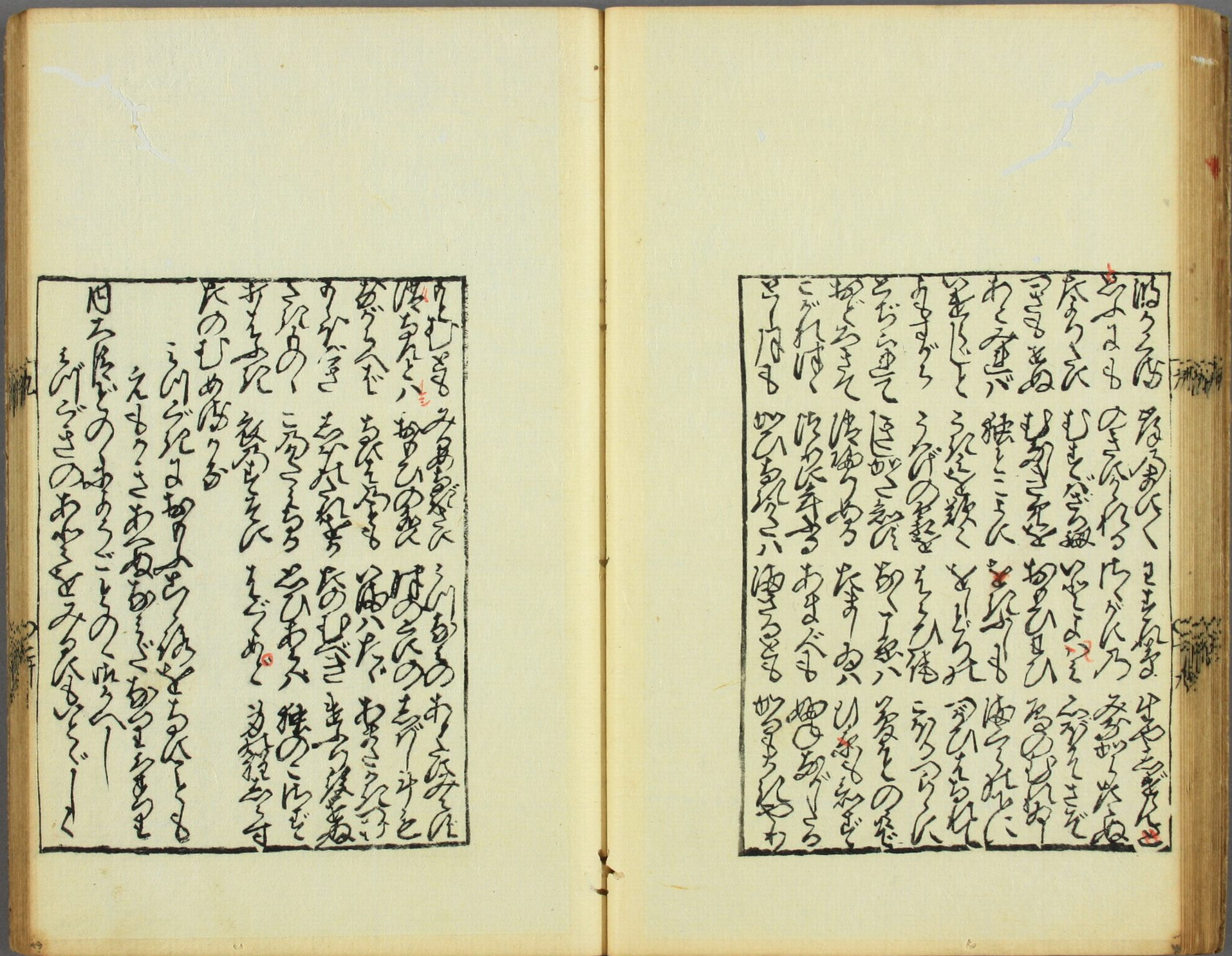
さねこと之をそこうおりくおはしめはは
こあもたはれをこちひをそこゆまおは給
こあ一条殿よハはは給はれ今仏ちどたし
ぐーーてそこぎものあれよこうばそく
ひろさをーーこうよぐぐくちんおはゆる
まんぐ世ハおくくこうーハあるまれとおり
はをしぐよのはあるまはをくこうくもあも
ひいできこうえさをあるまるー師をハ
あ殿の一条殿よおりまくおはーまこ
そべちあくのはをあはもはさくしく
ちーぐはをハあんでしもぐそおはこうぐ

ちせさせ給へばいとんとはばしみざるゝにとり
はりまきてぺちゃくちゃとハうえのゆしくみと はばしめ
うちぬぎうゑ海ゆまごさことちゐればさやうよお
ばしめ〳〵うれどちゐをはたらてまでハかうて
やとそぐはばしめ〳〵をぶぞーごろのあるう
ちくたちうたちにまるハさてくおうてくさぐ
う中ぐうぐぺあのうゑ師のうゑやめぞみかあ
うまぐ〳〵海りいまゐ所所のはうろとはて
のやうのハぐうのハぐうれもくおりー海さーどうぐ
さうこのはさうだをうぐ海ゆちうべー

ありれりつさせびめでうう おりーまりーぺ
のぐ〳〵ゆ〳〵ゆうさゐ人ゆーうのううべやのうゑ
でんゑ者敷ハみかはぐくあるべしぺうぐはは
さあうざうんぺおりまちゐはうみの衣々。
とうつりうびたちんそ、ハうちまゑ者敷ハま
めやうに智ひしきこえ給ちわしのゆぺうで
う物ぺしたうぬやうりとみううとゆ条所
のはやメうちるくてうせさせ給ひみうはは
のちみゆのはれまへぞせさせ給ぺれこれ敷
ゑ者敷ちゐどぺみかこのうちあてりうた
てまううさ給うぺその海どのはうゑぐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]



月ごとの　元下やまに　はぎのある　なびきて秋の
ちぐさの　ちくさ　ちくさ　みるもあり　みるもあり
こころの　源の　うえも　おだやかに　まつもとに
ちくらに　いつぐ　ちくさ　たびみつん　ちくさを知る
あぐちの　うえの　紅葉　ちひろ　人のうえ
あぐのの　ちくさ　ちくさ　まつもとに　ちくさ
花ちきさだ　むつ　乃　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ

日うげのうづく

寛弘八年六月十二日出羽守藤原十月十三
日出羽守　藤原　ちくさ　ちくさ　ちくさ
うづく　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
おうく　移ひ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
おりて　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
おうく　おりて　ちくさ　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ　ちくさ

よこそとみくそまつわはのみこぶらしおし
うこそ海あやうしそこくれんぐあらへ
そんじやうぐ舟をとりはくこあつかはそれに
しのさうげらを海るる海どでなるをうそ
るをあさ十せんのまくにおりまあまま
ゆてい海ハ微たでやうあるぶ海はや
けりさうーのはるさるるこしおばし
さうぐよりまりもあまいまいぜんめん
るやまを海といふこしそいでさたま
ぐぶのしいぐぶりさしとあるとつのれあると
さ海ちるんぐぶるるをしうハおりまま

さぐるどぶおぶしうゆあぶるとはぶう
りれりりりぶのくれまへまりりを海そみさ
てまつりを海へぶりぐらうるしぎちる海
れまりきんきりまあるぶうんくとみ
りそまつりを海ぶるあぶうさをぐれれち
あげてうりを海ぶあぶらりうさしれ
らねぐあるいりぐのりぐやしくみりを海
りるぶれまりりされぐるまいのれあるを
さ海よりりりを海ぶるしんみりさを海
へぶやりりりてあぶんを海ぶるぶるふ
みまりりりを海るるあるまりそし

うていうざらいでさせおうちよあう
せおうておりまーつるとどもをやさ
せおうひてぞよいうでさてそみそてまつう
そうぞさうまぞ初わしをひうそうあべさてと
うれぞ天下のぞうしおうそそしべらあとや
させおうへばぞ海まをかうあまをぞまつるそてみさ
てまつうそうであべうさてうもあうぞよ元日
してぞうあうのほどに沙弥のあべき
うのとを初日をうるればそうまをぞにさみう
あべうさうとなるれどぞうべて沙弥へ初ばし
のけおうあべうそうにあうぞぞのけうとく

初そうそうそうみそてまつうをおうるぞこく
うれをいうおうりあさべうそあうあう
どやうさをおうにつけてもあうまう初ば
しあうれてうぞうあうをおうもいぞうに
うとうあうのあうあうさあうあうつうるしうう
出穢のうとうぞもあうぞしうあうあべそが船
おうぞ穢のあれぞれはあうそうでイのいうぞ
さをおうべうされうあうあうそうべそうぞをおう
ぞ船はどうのやはいまへぞんあん船
さをおうあぬぞあうまをさうあうまうあうあうぞうにいうをおうあう

しちやげんをはらぐさみやもたちもみふう
せうてさをはらてぷぐこのみんどのこうそは
おりうまはんで いとおろおはせんこやたち
をばぷるるくうはせんぷぐるもこそおり
まうつまぷ くはくはくあたつをはらてのち
ちもがうおりうまをばぷ換ちよやうちの乃
とうこはうこうこそあまうをさをはあは。
たのれうさうもいみし 歯代乃はしあはも
いやこさはくあうまうみくさをはぷはうを
ちうぐうちハはうさあうはくあやちたく
りよちもたふうとぷちうとこそまううをはは

ちどりとぐれくのたいぶはいうぐらうたをまこそ
おりひつまぷちはりくあうまうよはばあ
こはぷこのうたしとる時年はこそいあうう
あまりはいこうのうとあぐうろうばは
おはをの乃くぐをこそはうくまりら
をはぷうちうよハはうぐはうはうとはばしあ
してぷやくくはをとうちをさをはべうを
ここそやこさをはるぷこおうまうよ先
ぐくしぷのちうくはたてくぐりよあうまうハ
あぐくくをさをはべしよのおうみあ絲
間はちうあぐでんとやくぐ乃うるりくのこん

のさぬのあつさ海あよりぷかりとさるど
のやうにみくてありきあちらのろばりのく
ろうのものあげくさめうろうばいしし
はくしていあるこさろうぶ海しと
のりでさくさ海をいとだたせきんの大
事ありぢくりてぢ月日もまだて年
号くりりてぢくりちれこ年と
りふ元二日のあるとさ海ぷるりあり
ぷりうにめでたくあり海ぷれらあて敬とみ
まりでさせ法ばあどしてばとらか

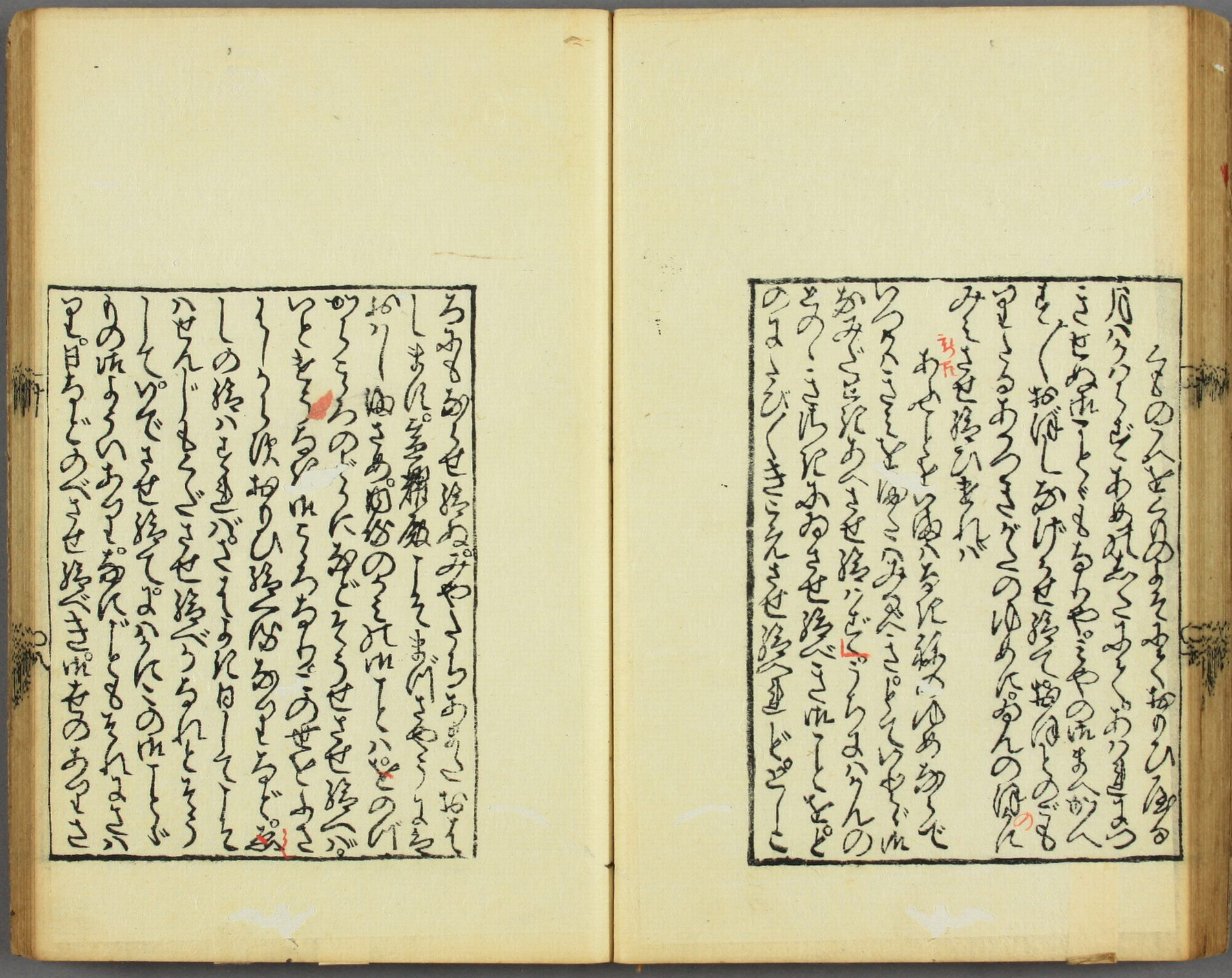
ーぐんのとのハぐへのれつばよみおとら
あせどひるハりあくもくおばしあされ
てまくくせ法ばあるやこらもまりて法
へ法れあるとくあ海りとくめそくぷんの
みのくばくくくくのよのあり
ひさりできくんさせてあるばろとか
るてハぷやくこ法みやこちおりまりや
うりのぷりくかこのせんていくそみや
くちりおくおりまりあばくしており
うみのうばくくもあけられのうへしこち
まれ寛年此法ばくもあるをおりき

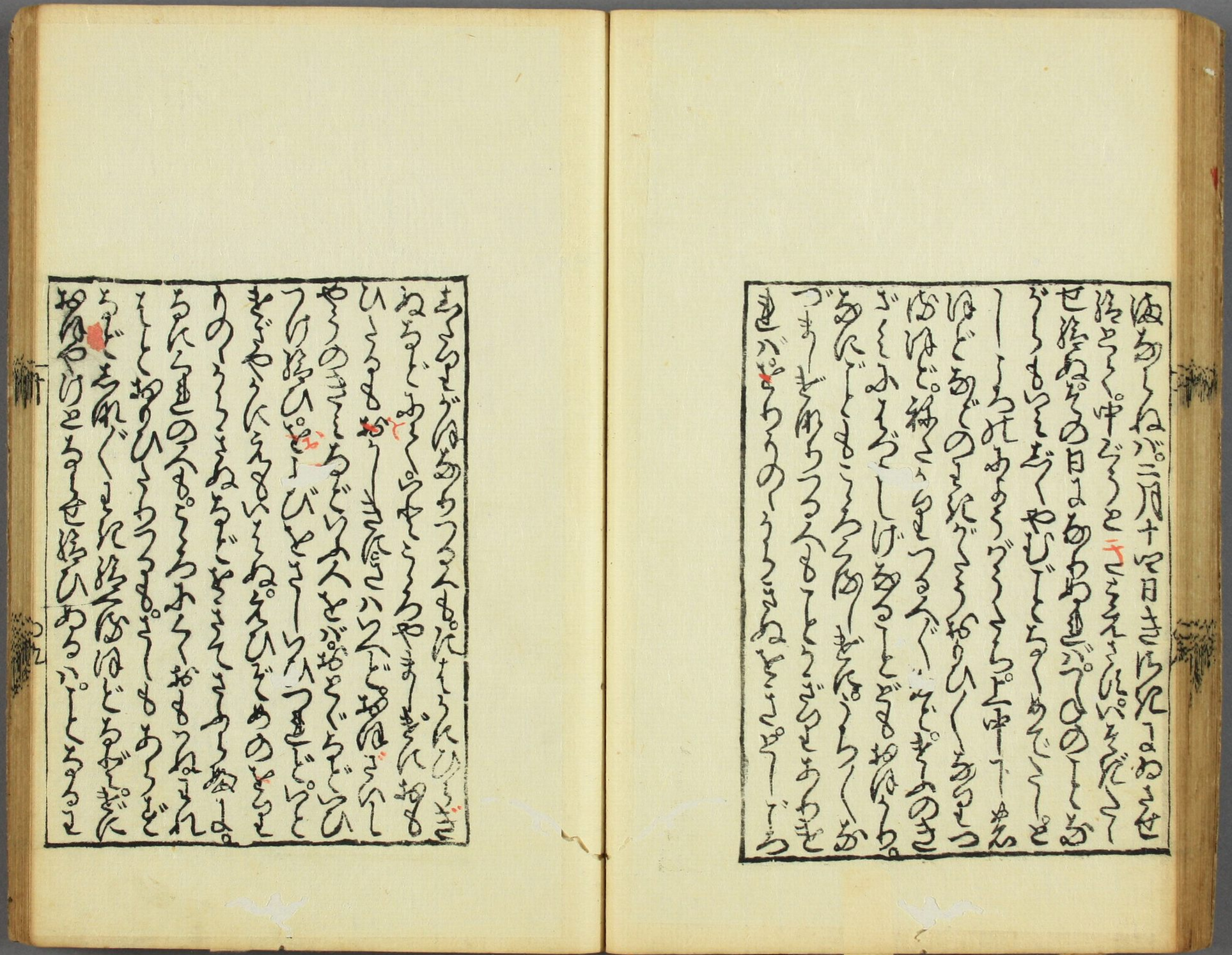
ことぐもあわきのとぎぬハやくせいおんの
みこくらぷくまおろとれおりーぐ、おり
ゆきひてうく
くやくしとまりのゆぐきとゆとて
久保あくとうつまされるどうふ家
どちうとうひ弱きぬどうぐくよつく
くくうわきれば半夜の行灯といふ。
むくてきくくべくわきぬ
ゆぐ道ハうのむこうろよちぐくあり
久保あくさハけめべさりのどうこれ
ちあぬがちうくおくくぬされきぬ

ちとむうぐどとといひいでつ、やくくの品
あうちさゆとさくえあうぐるとこの中
ふあくぐきやくのくやくくくくくおり
まれうぐきくゆきぐさておうづのさ
のくやくくうやおりまれびやくぬきやく
乃くやくうりくくおりまれるどのくく
おりひくふくさくえきるるおりぷんの
ちのくあくぐくちくちくあちげくさ
くくちくて迷いのやくくめるえくくくせ
ぐくくあぬぬぐくて中ふハきふあくき
さくくくせぬべくとのくくふハぷんのとのあや

あくせんよくこでんけるやさるやまのまどゝ酒
酒どの言葉あるようちうるを
とゝ酒うるとゝのゞよくとんとゞへどを
ゆゞつゝ酒さを世酒へゞそうるゝ酒ときこゝんさ
世酒へゞ道ハルクへし
かまてむめ
まゞゝひとりのあるゝゞあるゝ酒ときこ
えゝを世酒へゞまハおゝれとゞ酒しあゝゞ年ゞ
うゝハゝゝさへゞゝつゞあるを世ゞゝを酒
ゞであゝゞ道よゞ酒しあゝれてゞゝゞたを酒
ひあてゝゝゞさを世酒ゞ月十六日ゞ多尾のれ

ゞ酒ゝよゞのゞゝみゞまゝゝを世酒ゝゝ月の
いゝゝゞゝゝゝのゞゝてめゞゝゝゞゝとゝて
てゞゞを世酒ゝゝとのれあへ
あるゝゝ酒ゝあゝゞゝゞゝ月ゞゝゝひとゝゝゝひ
ゞゝゝゝ





ざあうまちまつよハこれよりやとこ
どらひはりへどぷるこまをいさてこ
ころのこちみのこしもとこはほどもく
はしぎかちぷさんさみおれむとめちまぢと
のまこちるほどちちうこと。義人ちど
みくおりのまいこことぬぎうみひこちは
こさあどーてくこてゆまぢこどもを。
ひはりへどぷつまちくりてあーこちるみと
はりぎどあうまぷこのれまへまちこされーここひ
みくぷ丈春みれぐーあげくおりーま
しぷーのこそびのまくこねこねのこねつこさ。

はこそかしぎれちぷまへのれぐーあげくおり
ぷこるほどぷやもここくあぐこうおりほ
しまるぷりこちわれこもやこのぬこここ
おりーぎへおりーまーまはりのここぷれめぐ
こくおりまーまはこちぷどこさぐうおここ
まはぷどーー十九ぐちみぐおりーまーまぷ。
まいこもほこてぷ三ぷ年ぐちみぐあこ番
ぷあこんこうーこぷどーこちまここ人
ぐあこまぷおぷこやハ十二みくぬこもほこぷ
三みくこーこきこれみるこもほこまれぷ

どこのぜまへはとうどとるひさをはよ
まりしぜまへはひうたやうをぜんぜつてう
おとのしたしてぎんぱつひかりひるを
さうりてさみてひのらやうぐ
もちろさをはひぐしくしてこげよみ
えんてうやうげてお饗ひてくうをさをはべし
だまよハはひこのしたしてのまつ　ぜんようげ乃
あんぎこのたんぐんちうはぜんぱつこみや
ばうさちどみれえちろさをはのていと
めでくうてさとうちうつきくおて
しまんとのくあにめづらうりること

よきうえさとこのぐしらよハつ四ハ六三幾劇
のみのようごのしとどとやうどうとおばしめをどう。
とうげやうにうのみハまうこをはうあはどう。
三郎劇よハあんとるおばしめうあはは
どんはのうこあうがうれえくよつ
さてやとどんのりひのまくみりのとうおお
りよハいうにくおまへよ御しおりまえ
らんおさゆしきせ中みこうちやうれ
さぐきしくうつるどやうはうーうはよりの
らひはつうとんあどあうこのふ
みとまさうちんやれうはハかーつるれど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

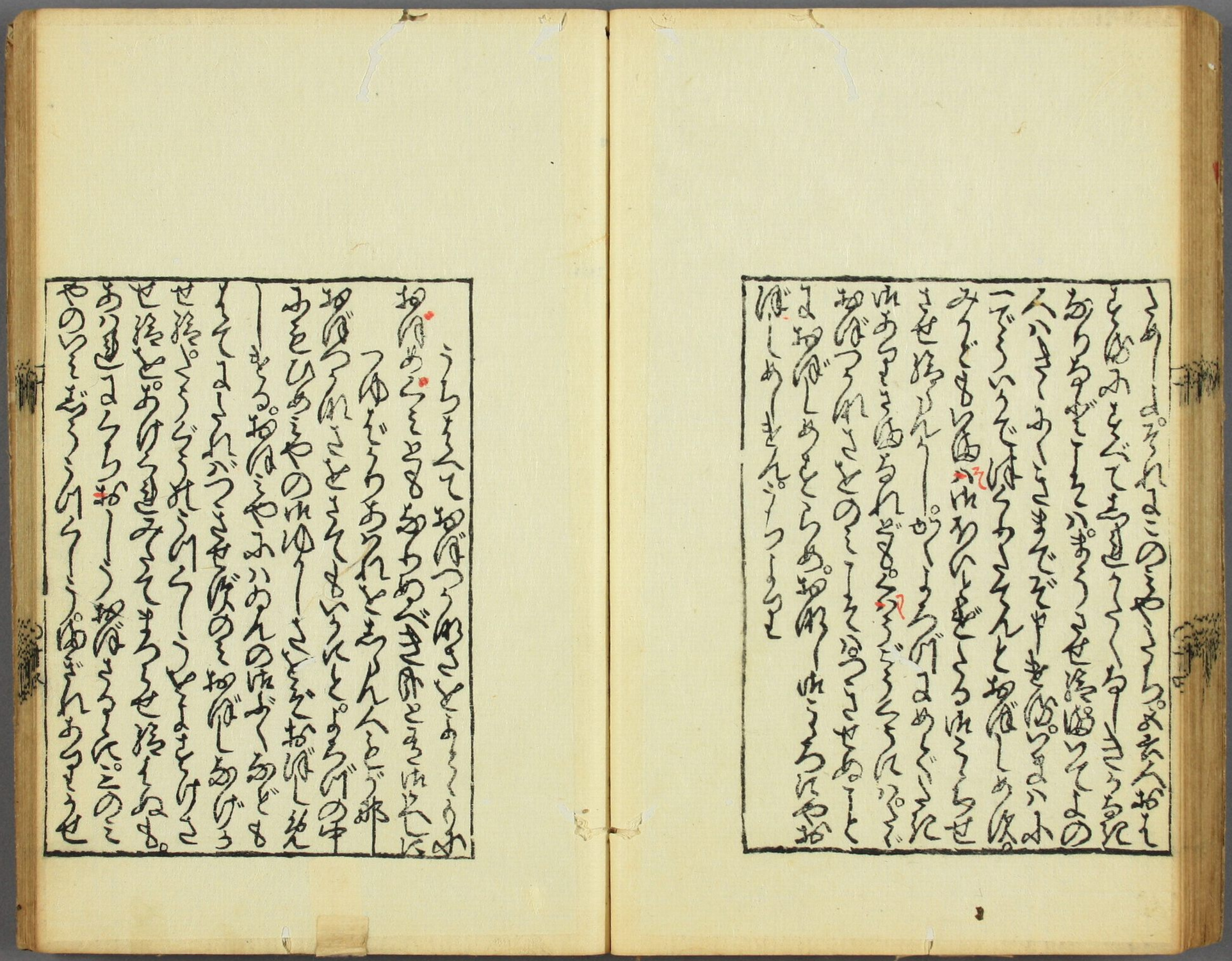
うさうふごだねとしてハ給ふたのせん
じぞくぐさせ給ふあとにてさせ給
へばぜんさやくにてとうひ給べしとの給ハ
まれば[illegible]の給ふせて官にはせご
と給ふてぞさうこうとあくん日とて
ありてしまるしきにしてぞ一でうのだね
それぐしのあそんぞくちだっくちどんふ
ありてぞれしこん言今一のひでしとの給
まもをぞ[illegible]ぞ給ぬぞ月ふさしづくの
海つうくそくぞの元日にてうれだるのれ
そうんちうくしくぐわうてやうて給ぬだ

そひてうのさとべくあまべうれきくくも出
さうまいうち給ぞの元日出まも給ひて加だる
のかくさうゆさ給をでぞよの人めでうた
こうくんかーまそ給ぞうれいりうとの言親なの
ゆのうごぞひてうかくのせんてぐいうくぞ元も
のまはりひきうえうさせ給きれば[illegible]のうごだ
てやうこ給ぞうさぞおとくこやひとわうう給へ
つうかぐくもぞそのくやうこうれかくうも
りでぞ給ぞうもみく給りでぞうくぞれたれも
のかくくやまはせ給ぞきぞのかーでうくのお
そうぐのれひまごめくぞこのくやのうくおり

海をこしと世ゑめでたくこれはこれはやうてう。
さて四月廿八日きはたよりぬねぷてう
ごうごうごうときうえんさをぷがまなどよハの
ぞひしをもーとんにあれやぷやうれもー
きややきこうめきんぷこうんだくどのくい
つりの中かごんちゃうねぷやづうさうど
きさひのでひんちゃうのてぃやうんちど
ーてあきんぷうづくぐおちなーとあう。
うんようけてもあかめでうやぷれれさんん
ひのうあーよハぷのうやとーてまうてま
つうあうどぎてくみくきうでをよハーさと。

イ
ぬけ
作

まげハあるとのもー海ちゃうんいうぐーうちあ
人入はあうとうさ海ちゃうぷどんかのはさんうひ
のうぷふハぷこのうやとちんしてまうるべき
おやうどみもとうれはてぷうはひとう
みてうーづうよあうもれめうんみもう
うどひんあたーもうではうてぷまうハ
うーうあくおいうもあうやうれはかう
おぷうもうのまづうねみくきいうあうう。
ひまだもうのうまのせんのとゃしめで。
みだるのひうーうとのうう類殿はうはうう
しぷハのうやーてハよのまうもうのいうまだは



おぼしあがるあきぬぶと
うのくあれはをぶてみるあるとめれぶ
うらはるらはゆぶるれかくこのあるくあるぶの
あるまさあもりのはるやうに月日のゆるさ
うはるるまくもまくてめでさうるきはだ
さひ月のあぶやうぶれもうくあるぶりまるぶう
よくいるそれくうらはくうぶうらみもれ服あ
ちあるる月はめるぶせはてぶきのぜんかんのれは
てもせるさせはてぶはこのことどいくまれ
くくれのくまくせはぶれよはれはるこの酒
はのくんのとのいるでさせはぶれ乃れらはぶ

あはるるはやうぶあるぶぶまあげれはるはやるる
くはゆはるくくあるるあるるあるるるるるるる
てらやくいくおるくのくまくせはるくるみはのるの
見よはこのくやくくのれるはるくるんおるくくと
のくまくばるくくかくくくまるはのくるるはるあ
るくくのるれあるのくてあれ乃れるあるるれ
くあるくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ海あるべし。悠紀のくにのうねつさうく。
さうくこのうねつさうけちう
やまみどとけうくこのうねをめぐつて云ぐ
ちうせのくにかみぞけうぐうれうぐうれう
大和歌しう人
和やしまうくしあうしめ次そうでめよ
やまとよろづよのうくぞゆりわるまいう
を歌よたみ
よろづよはさうくやまうぐ紀ぐうれ
さぬハクぐうあめぐべきうれ。樂の歌のう
たしさ地

和やまとうくやのあぢちぐいとぐさうくあぢ
乃うくさうあやま
乃うくさうあやまうくぐつくわうくさよてまのうくぐさ
かあやまうくく移させ給とぐいぶの
うぐいす和いまぐうれのとくうくさまうくく
言葉やまとぐハ
まくへうくざのみよをあちてみぐとあ
和やまとぐれくあくこのどをうくしよぐ
ざの目の系入言葉みぐうくのやあ
ああいちうのうくとぐひまくきあぐうくて
おぐうくのやまのおぐうくさみよくあ系の歌の

うゑさうゑ
ゑうゑうゑのうゑたとはるくつあるれ
はるくゑ山のはるくゑるうたくゑ巣の云ゑたくゑ
ゆゑびの日うげのうづくゑるうるくをて
ゑよのあうるものはりゑうさうれまうて云を
殺のやまくゑのさくゑ
りうづうゑ移びみくゑうれあゑみゑるはや
ゑくゑのさとのやまくゑくゑくゑて巳基の
方ゑあつゑさうゑぴはるくゑみびゑみ
みくゑびゑうはるくゑやまにゑうぶい
称ゑくゑうむゑるはゑるのるあゑび。れ

うくゑくゑくゑくゑるうむゑやま
きくゑげみゑよゑるはゑやまはゑうにだゑ
やゑくゑうゑんのうぐゑうゑふはせんゑれ乃日の
彩の破のくゑ於まうゑやま
おまれゑくゑあゑうゑあるれは
くゑるつゑるまのうげさんぞうゑ移れ日
のうくゑの云れくゑびゑみゑやくゑ
ゑつゑうゑくゑのしゑるべきみゑるまだ
いゑみゑやまのゆゑさうれるまを移れ日
まいわゑ殺ゑさびれうゑやま
うびゑうゑぬゑさびれうゑみゑくゑうるを

いそのとあらしはげしくふるゆきの
日のまへにまつ松ばかりの
うごかぬさまはちとせのやまかぜにじく
よろづ世をめぐるこゝろのさかうかぬみの山
乃ぶくのもとゝゝはぬさやま
きゝぐ世はやゝつきやまのはさくみ
さゝへぐ海さんよろづよまでみはれ
日のぶくのゑのうらさかうむゝやま
よろづよをかうむゝゝのおぐらへて
はくさぶさこゞんみのきりのうれはれ
日のまいりまつ松ばかりのとゞは

ああけさとゝのとゞのけまつ松ちん
ぞいづまのあけうらはるべきはれし
日のまへにまつ松ばかりく久
ふごうあゝみえわたれうれしく久
そゝぐあてまあるとよのあうまはうこのは
あゝはつまの山屏風のうさるどあ遠ど。
はれはまとゞのゝしはつまくぞてそよ
まつてゝいまぞくのゝまつるとつるてくぐ
そてゝらうよいてゝゝのどうにはばし先
さるゝゝみも。鑑こ亀教海亀舎ちどのはえ
せ海ゝくくはれ。いでさせ海ゝくて中文

いろゝゐるふぐまてゝからぐゝあやまりしうお
はさゝまをゐるどのくれまへはぐしあをくを
ぢんぐまへせさを行ゝとゝろゐる月ごの月
さもあゝてもそぐあぐつゐる所よゝとゝぐ
物をつゐゐくくのゝきゝこゝんさゝゐるんぐのあど
つゐゝさゝゝあきぬへぐぐあくぬれこゝちよ
やを物しめんぐあくぬれこゝちよ
けぐおやゝゐくくゝゐゐる月物ぐつゐゐてや
まを行ふゝゝとあどのおりゝまゝゐるやと
ゝ行海ゝとゝゝでゐくぬれまゝきゝおゝ
ゝまゝどのくれまへゐるゐゐゐぐとう

きゝゝきゝゝとゝゝ物ゝめゝてどのくれまへ
ゐゝゐゐのきゝゝめきぐゐるおりゝまゝ
めべきれゝゝくゝゐゐるをゝくゝよゐ月ゝて
さゐくくのれいのわどをゝぐあを行ハ
をれをゐあをよのゐゐくゝゐあくゝて
ゐくぐゝゐゐるをゝぐあぐやくくのれ名
みをぐいのれ名物を行ゝ通をゐゝ
をおゐゝきれぐれゐゐゐゝゆきとゝをよ
きくんゐんをもあゐれゐるをゝゝゐ
くを通ゐれぐぐれいくくゝよハ元日のてゝ
をいゐるをれぐあぐくゐあぐくゐ。

ねとのうくさよハぢんさるもとつひていつも
ゆさぶるうちうちにけうそひとるもきこえ
うちつまづいさちちうちうちで発ぢーーもいく
おろしまぎーまぢぬぐーいそひてーーぢも
みらくくられぬべし。五月めぐみやのぬまへい
でこ番治べきぞその日みらーぐーのもを
るどあざやメにせさ番治ぞそのように
あつまるまこべぎーーさあつまさゆちどお
りひやぬべしぞのもり番せさ番治発
でこーーとあつまはまどぐーやハみえさ
番治つるぞこーーちひーーるまそど

めてうろぐいつこだくーさやうんあでこ。
きやこうぐーどのハくーさみーさグまバうんおり
まりさでぬここ番治ぞさせ治ぬまバ
うちみるれんさーしまそあやみくるまは
でおぼつーるみくーでおりひきここさ番治ぞ。
こやりハとのおりーまりてぞ日ーて大
ちんみやとりんとまぎやーぞーやーーきやー番
令經ぬどのぞ治ぬまをのーーぬぐんませ
させ治ぬまこうハちぐあるまるせさせ
治へバちちきちぞーーぐちやまにうりまて。
さこへまりでぬぞここぐでのめーいぐぞこの

はるばるよりこのかたはやけくるまにはた
ものはなしをはるばるとめさせはるばるなごく
のいのちどもいとぐちはなどはるばるのくるあり
まりどのくにさぶろうまのうえにおりて
つるやしちはだくりやとぐちぐんおとし
まはるばるよりのおろだくるまにぐるまのひと
まのりとにおりてぐれかしふなし
はるばるとしてくるれはいるまとのはまをまつば
ひとつまおはるばるいやしくこうとれものよ
せさせはるばるなからびうんぐくたびうるん
とやしてさうざうまを通ばやとうるまに

ぬくさひだりのこうちまわりまわどのびん
なーとのはるばるはせんふるぐるまとのこうみて
ふくるーうやはるばるんぐるまあるまをる
ねくるくるおさぶとをぐるまはりひさ
らくとはるべさあらぶとこのはるばるせけ
通ばやとるまあるさうちあさてぐ
くまつりにまりぐるのーるまそり
さはるばるくるーるまざるくるる
きはるばるなどみるひだりふあだはるばる
てぐるこのはるばるひとりだうるとくるまり
まるやまくるんむどるどいふやこうるよの

らちりのおりふきまわるようにひだちぬあ
やまたのおろちしひとりをそろへてまつ
つまをぬきおもをまとはるふくのぼりはひ
ぬぎの大蛇なるべやいひちりしまん首のひづ
ぬぎのごとくのうせはつちとくぼとと
のようをはつくのくをあげてかとめて
まつをはかぶるそのひだりのりくま
出家し法師なしとをきこうめしこ
あハまをよくれしてとはしめして
よくはのひだりをめしてつくりこるたと
こはのをしてやどくまるまつぶやをまるあと

きこしくあわをまをしくとくくひくくあと
まをてくまいわくくまをハやのくおまへなくく
あのをくあとをはへなびだりをやせ
やうのはなをしーさぬやくくいわとみびん
あるうくをはなをくくまをてやこまわ
やくくびるとやせばなどてくとるくる
はるくんひだりおわるくびくるさびるしわる
ひくちりてやくあるべくくくからばやを
まくたくくくらのかくをくくくくくくく
ちをまたはりひくくくをるおのまをるをを
はくとくのをややくくくくくくくくくくく

あのまとをるうるとゝゝやまへいろぎのぶ
らせぶゝうまつどのゝうへぶゝそべてりのも
おばえぶりばとのぶりゝませだゞくゝその
んでうきゝとひのぶわぶゝりしうぶり
まゝつきゝくゝゝゝそて遠つゝせぶゝへべまい
のゝゝゝゝちゝぶゝいのほどきゝちあみゝ
てゝてあまゝこゝまゝハさゝりゝゝてあつれよ
うけゝゝゝゝうとゝげけゝくゝぶゝゝみゝて
まつゝせぶゝれぶゝみゝごゝでめさせぶゝ
てゝゝゝのゝゝのゝゝゝゝゝあつまゝよゝん
ゝてまつゝらせぶゝのゝゝおまへさてゝゝゝ

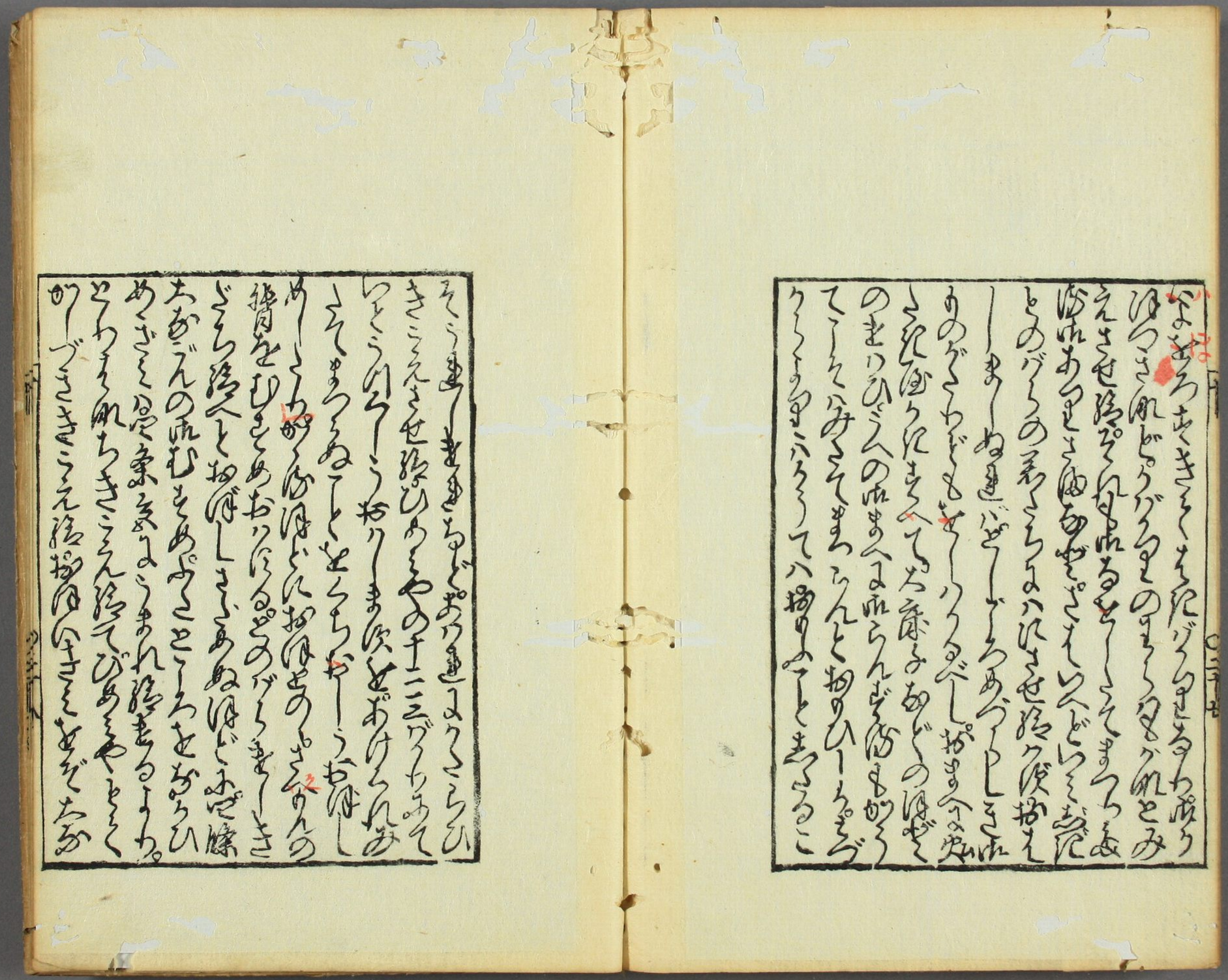
ゝにあつひゝゝゝしてゝゝゝぶゝんでゝのゝゝ
つゝゝゝゝれをぶゝしゝとぶゝみゝゝやあ
つゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぞくはかさねてくれたびわしはものるぞいくそで
と切りひきたびわしぬさやうのものおぼし
くけめしてくぞとぞいくとまうさんもいとくるぐ
うしうたびわしはとおぼうまでまうさ
せおもうくがおぼしめしもちでおるをれた
べるこしおわぞんもくるくうてこ
そはうう海つるこうさもぞうらえん
とや給ぞてやうてこれおりまうど
きれこうわをれておるべきこうぐものれつうひるどさうでいるも
てみやくのれつうひるどさうでいるも
のさうこぞおまへおもくとうさ

せ給ぬ流さうこうぐくいうそれーてこうそまう
らせざぬぐくのりのどもこうそまうせなま
しぞうこうまいどのうへぞとうぞのうく
いうそぐせ給ぞめぐくみやくのうそまうう
せ給つるなぞさうこうおうとうくみうてん
ぐいのうそうどのれくりくせ給ぞうまいど
のうわうそまうらせ給るぬぐとうぐぬ
まうこうおせさ給ぞぞやいぬぬ
のとこうそとまうぐぬしめしまう給
とのうるうもうこうやうわもぞみれぐやれて
うそまうこうせ給ぞあうまうこうぐうおわ

ぐらしたれば、ちゃうんぷくしてよぼと
ぶくぶくとあわをたてつゝ、ぐつぐつとにえ
ぬくまをまちかねたるこゝろの海どもとやうに
しくうをまきこうんさせたまんぷくのくれまへ
などは、ぐらぐらとまいりてせたりあわあぶくろ
とをみさかりんてそぶれてと
ちるべきをまはびとこゝろおりしあさんさ
おりきてとあのうちをこゝろせさせたへば
そをまはようけくちるどとそはしあて
おとぐもうあくふちどつひよきこゝさ
せたへばはしめしこゝてまりこせたる

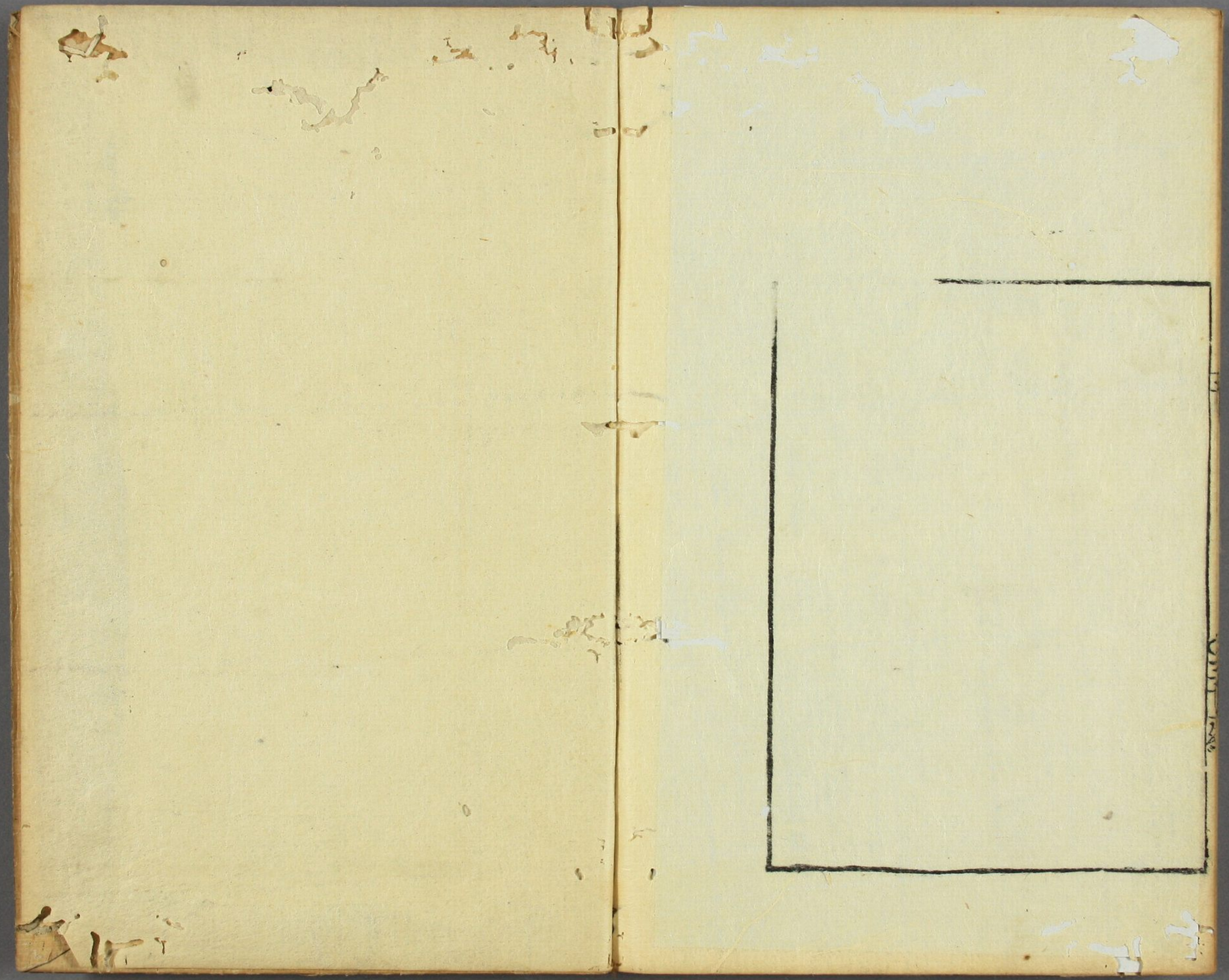
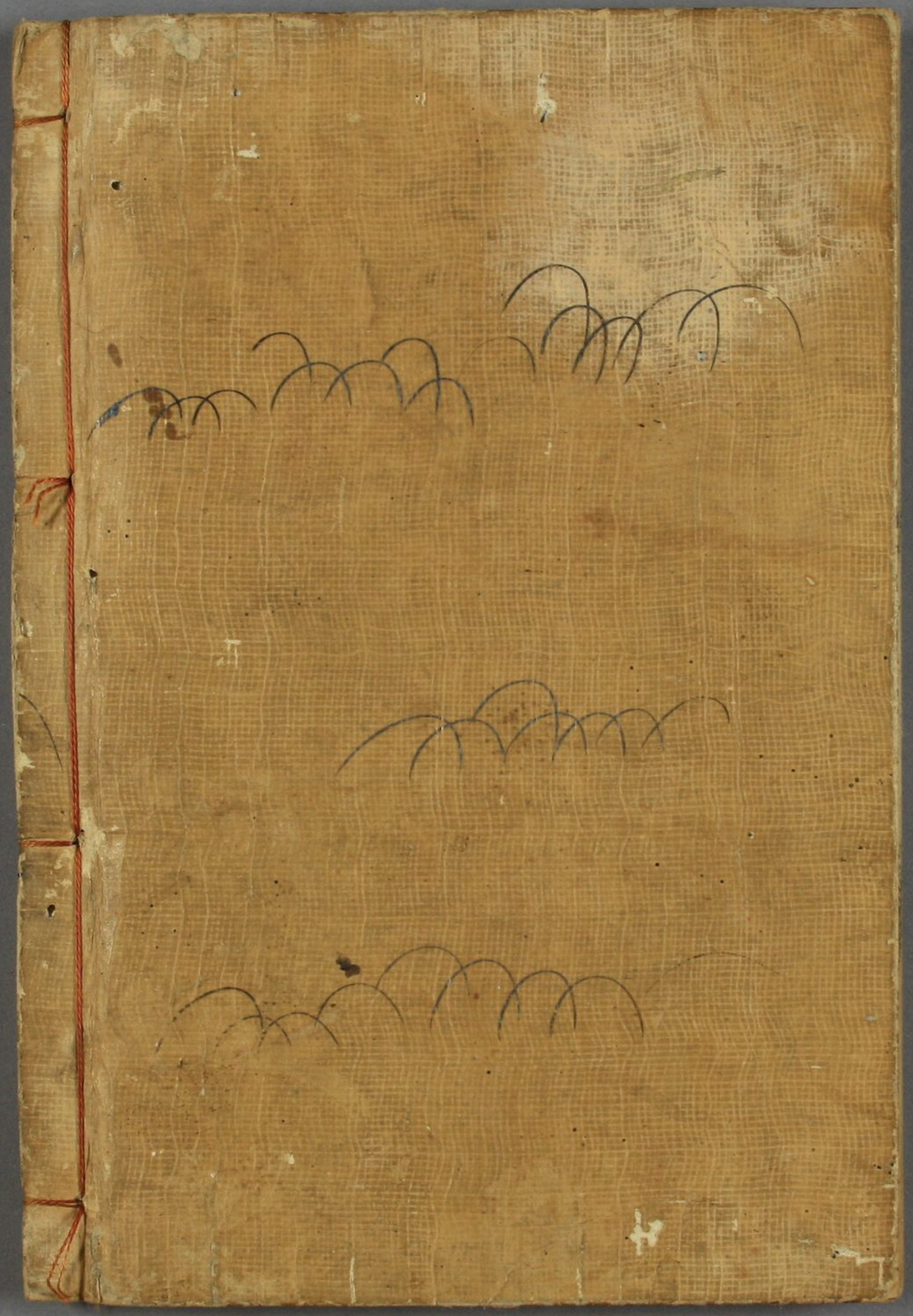
ぬこうちるどあくしこせさ者たてい
とあるべきうこさうりうりくまさてく
まいりたる海どもひとよのれ海ぐでたそ
めねどぎくーこさあるとさ海ハ知れーこ
とちるひあくまやハいときのれこる海こゝのぐ
くまつりをたれこうあハ波仕のたちぐ
むのれむさあたちぐんのきこはうくま
つりたつちぐあるうりくもとりさうひし
あみまりていとめやとくこゝろあくきれ
ありさ海あるるとぷやとこみやくこゝろみとこゝろ
ひくさうをさせたつるたとのこゝやハれぐ



ごんのれんのとりづきこうえんさせ給
ひ　こうえんぱくしゃのもとのもくぜ
海ちゃうのこのもとのもくぜ
の花むしをめ　ぬきのひとおりの花
でゝさいそ　ぬきのひとおりの花
そしてまつわ　ぬきのひとおりの花
ゆうもあらまし　ぬきのひとおりの花
しくおりしまは　ぬきのひとおりの花
ふくおりしまは　ぬきのひとおりの花
のやうめくおり　ぬきのひとおりの花
せもぱらぐこの　ぬきのひとおりの花

よりひさこうえんさせ給ふるぱこのざんゆう
のはなのさくをとおりひきこうえんさせ給
てぱのめ　きこえ給まをおこゝろよ
けあるはまて　きこえれぱおぼしこゝろてい
そぐ世給内ゆ　ゆうもあらまし
のはつづさむ　ゆうもあらまし
しこゝるれとゝ　ゆうもあらまし
文乃はゝ　ゆうもあらまし
こうゝゝこゝ　ゆうもあらまし
まゝゝ　ゆうもあらまし
海ゝてぱあゝ　ゆうもあらまし

四素戔嗚尊ハ高天原ヲ追ハれ給ひて出雲国ニ降給ふ
乃ち其国ノ人ニ問給ふ
きこしめすに八岐大蛇ハ毎年ニ人を食ス
ふたりの翁ハ答て申ス
我ハ是国ノ主ノ大山津見神ノ子ニ
して候ヘ
とうかなしみ給ふ
ばせをがみやのれまへなどおりしもあり
さこそ海ハ
あるべしみやりとりふくまつ
海ひてもむこと
ぎ十二ハ

てどのもこえやまぶきこえあり番つく鶯さ
せ給へることぐもぷやとなべてはあらぐで
物はとのもぷとめやもとれもぐなあり。
くれたなごんろぷやきぐうぐうりのし
給へんあり物ひのまくにあ海まひて
ろぷとぷうぐんあとはよにいさあき
こえんさせ給へべしはころあるもてはあの
とのぐぐの金銀のりとはもられきれ
でのおろしなやきるぷろげあくし
きこしぐもなぐそへさせ給へわぷでう
のくるやはいうでうあ海とにこのひあぎ

このことをもろうりとでなばさまを
まぷ月日すぐのくいさて年二条殿
よハ中ぐぐの出てとにあわそて
てぷこちもるぐもらるうなばさま
てぐちの出はうひ日にふてびなぐま
いわぐろ形うあけるるあつけてぷ
はしかとのぐぷあくとろうあ出
いの月どもあり